

第16回 卒業設計コンクール展 開催

埼玉建築設計監理協会の法人化30周年を機に始まった卒業設計コンクール展は、一般社団法人へ移行した協会の主要な活動として位置づけられています。コンクールは、その趣旨に賛同いただいた多くの企業・団体、共催・協賛団体の協力により運営されています。

今年は、会場を埼玉会館から川口リリア展示ホールに移し、4月23日(土)から27日(水)迄の5日間にわたり開催されました。11大学31名の力作が会場いっぱいに展示されました。4月25日には上田清埼玉県知事がご来場になり、受賞した参加者と作品について熱心に意見を交換されていました。



上田知事と記念写真。この経験はいつ生きる？

◆開催趣旨

都市や建築デザインにもICT革命時代にふさわしい斬新な発想が求められている。そのような中、新しい世紀の第一線で活躍が期待される建築系学生の能力向上、育成を図る目的で、次代を先取りした意欲ある作品を広く募集し、若い学生達の考えた創造価値と熱意を奨励し、また一般の方々にアピールを行う。

◆日程

展示場所	川口リリア 展示ホール	川口市川口 3-1-1
展示期間	平成28年4月23日(土) 13:00~27日(水) 15:00迄	
審査日時	平成28年4月24日(日) 12:00~	
表彰式・懇親会	平成27年4月12日(日) 16:00~	



受賞者のみなさん



川口リリア 展示ホール外観



審査委員長のご挨拶



会長の挨拶



審査風景



がんばれ、男子！

■実施概要

対象

都市や建築デザインをテーマとした個人作品の卒業設計を対象とし、各学校3作品以内とする。
埼玉賞に関しては各大学3年生以下の応募も可能。

テーマ

各人の選定したテーマとする。また、地元「埼玉」について積極的に考え、課題を掘り起こした作品を「埼玉賞」として設ける。

参加要請校（順不同）

- ・工学院大学・埼玉大学・芝浦工業大学・東京電機大学・東京理科大学・東洋大学・東京藝術大学
- ・日本工業大学・日本大学・武蔵野美術大学・ものづくり大学

審査方法

公開審査で行う。質疑応答を含め一人5分のプレゼンテーションを行い、その上で各審査委員の持点で採点し当日決定する。

賞について

最優秀賞

1 作品…最も優れた作品（副賞として海外研修旅行目録・30 万円相当）、
（さいたま住宅検査センターの目録含む）

優秀賞

2 作品…優れた作品（副賞として 10 万円相当の目録）

埼玉賞

1 作品…埼玉を題材とした最も優れた作品（副賞として 10 万円相当の目録）

準埼玉賞

1 作品…埼玉を題材とした優れた作品（副賞として 5 万円相当の目録）

特別審査員賞

3 作品…各大学の先生による審査とする（副賞として 3 万円相当の目録）

さいたま住宅検査センター賞

1 作品…住宅を題材とした優れた作品（副賞として 10 万円相当の目録）

さいたま住宅検査センター参加賞

適 宜

総合資格学院賞

1 作品…社会に飛び出す若駒のエネルギッシュな作品（副賞として 5 万円相当の目録）

JIA 埼玉賞

2 作品…優秀な提案、建築家に相応しい作品
（卒業設計を行った年度の大学学科の所在地が埼玉県内である応募者の中で優れた作品は、本人の意思を確認の上、JIA 主催全国学生卒業設計コンクールに2作品程度推薦する。）

奨励賞

適 宜

審査員

芝浦工業大学（審査委員長）

//

日本工業大学

東洋大学

東京理科大学

東京電機大学

武蔵野美術大学

工学院大学

ものづくり大学

東京工業大学

埼玉県都市整備部建築安全課

さいたま市建設局建築部営繕課

（一社）日本建築学会埼玉支所

（公社）日本建築家協会 JIA 埼玉

（一社）埼玉建築士会

（一社）埼玉県建築士事務所協会

（一社）埼玉県建設産業団体連合会

（一財）さいたま住宅検査センター

埼玉県住宅供給公社

衣袋 洋一 先生
澤田 英行 先生
竹内 宏俊 先生
櫻井 義夫 先生
常山 末央 先生
呉 鴻逸 先生
菊地 宏 先生
木下 庸子 先生
戸田都生男 先生
安田 幸一 先生
白石 明 課長
池田 哲郎 課長
時田 芳文 支所長
鶴崎 健一 会長
江口 満志 会長
橋本 健二 副会長
新井 康夫 常務理事
青柳 利之 部長
前田 一彦 理事長

協会会長 栗子 喬
相談役理事 高岡 敏夫
// 片渕 重幸
担当副会長 田中 芳樹
副 会 長 長谷部 常美
// 神田 廣行
委 員 長 高梨 智浩
委 員 奥村 和宏
// 村山 隆之
// 齋藤 文博
// 菅野 高宏
// 佐々木 到
// 村田 行庸
// 徳永 茂

主催 （一社）埼玉建築設計監理協会

共催 （一社）日本建築学会埼玉支所、（一社）埼玉建築士会、（一社）埼玉県建築士事務所協会

（公社）日本建築家協会埼玉地域会（JIA 埼玉）、（一社）埼玉県建設産業団体連合会

（一財）さいたま住宅検査センター

協賛 （一財）埼玉県建築安全協会、生和テクノス(株)、松坂屋建材(株)、TOTO(株)、総合資格学院、

日建学院、(株)東建ジオテック、大野建設(株)、スミタ工業(株)、(株)田中工務店、(株)佐伯工務店、(株)八洲電業社

(株)蓮見工務店、斎藤工業(株)、柏木建設(株)、吾妻工業(株)

後援 埼玉県 さいたま市 テレビ埼玉

第16回卒業設計コンクール

■受賞者ならびに出品者

最優秀賞	高橋 杏奈	工学院大学建築学部建築デザイン学科 坂出人工土地 再生計画
埼玉賞	加藤 慎也	日本大学生産工学部建築工学科 建築と余白の狭間
優秀賞	小室 龍昭	東京理科大学理工学部建築学科 余白な建築～その余白は風景を吸い込む～
優秀賞 JIA埼玉優秀賞	木曾 貴大	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 1467mの境則に閉ざされた海のワレム-防潮堤に寄り添う交響建築-
準埼玉賞	町田 純一	神奈川大学工学部建築学科 継承する想い-秩父以外第2工場の空き建屋臆こおける博物館の提案-
特別審査員賞	村上 智可	東洋大学理工学部建築学科 3色パレット-彩られた生活の塗りかえ-
特別審査員賞	大野 敦志	日本工業大学工学部建築学科 蚕都婚礼街道
特別審査員賞	増田 有佐	東京理科大学工学部第二部建築学科 新世界との澄廻
さいたま住宅検査センター賞	永澤 絢佳	日本工業大学工学部生活環境デザイン学科 坂道小道の町の家-地域の魅力が生む新たな居場所-
総合資格学院賞 JIA埼玉優秀賞	中野 綾希	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 「六花(むつはな)」-あいつの心を繋ぎ育む現代の集落の提案-
奨励賞	安藤 慧香	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 ガニメデにおける宇宙建築の提案
	梅本りさ子	武蔵野美術大学造形学部建築学科 石切場 あるいは流刑地
	大河原光司	東京電機大学理工学部建築・都市環境学科 川越娯楽文化基点施設「鶴川座」
	小栗 涼香	武蔵野美術大学造形学部建築学科 流れる景色、私の空間。
	川田 琴音	武蔵野美術大学造形学部建築学科 地域の軌跡を伝える～埼玉県深谷市郷土博物館の設計～
	木下 直樹	日本工業大学工学部建築学科 宮代地育センター大落古利根川に向かう地域文化継承拠点
	篠塚 亮臣	埼玉大学工学部建設工学科 駅から広がる街づくり-大宮周辺大改造計画-
	土屋 柚貴	東洋大学理工学部建築学科 晴織る
	永井 英子	日本大学生産工学部建築工学科 江戸切子美術館
	中川 勝貴	東京理科大学工学部第二部建築学科 まちのラーニングパーク
	中西 海人	東京電機大学理工学部建築・都市環境学科 additionation-住宅と街路をつなぐ中間領域-
	八角 隆介	東京電機大学未来科学部建築学科 一町の成長とPublicの再構成-
	半澤 薫	東京理科大学理工学部建築学科 かわりゆく街に寄り添う
	日内地清一	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 脈動する雲-持続可能な熱狂空間の研究-
	星本 葉月	日本大学生産工学部建築工学科 Laboratory&Museum for water p・ication～印旛沼の再生に向けて～
	増尾さと子	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 とわにイヌとともに-イヌとあるこれからの動物愛護のありかた-
	宮城 江利	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 ダブルグリッドが作る柔らかなパブリックスペース
	宮崎 文夏	東京電機大学未来科学部建築学科 集う。～緑でつながるまち～
	村山 倫浩	工学院大学建築学部建築デザイン学科 炭文化から地域おこし
	森田 康介	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 Residential Laboratory-22世紀に向けた集合住宅の再編-
	柳 直登	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 活動が浸み出すまち-和紙文化の発信と伝承

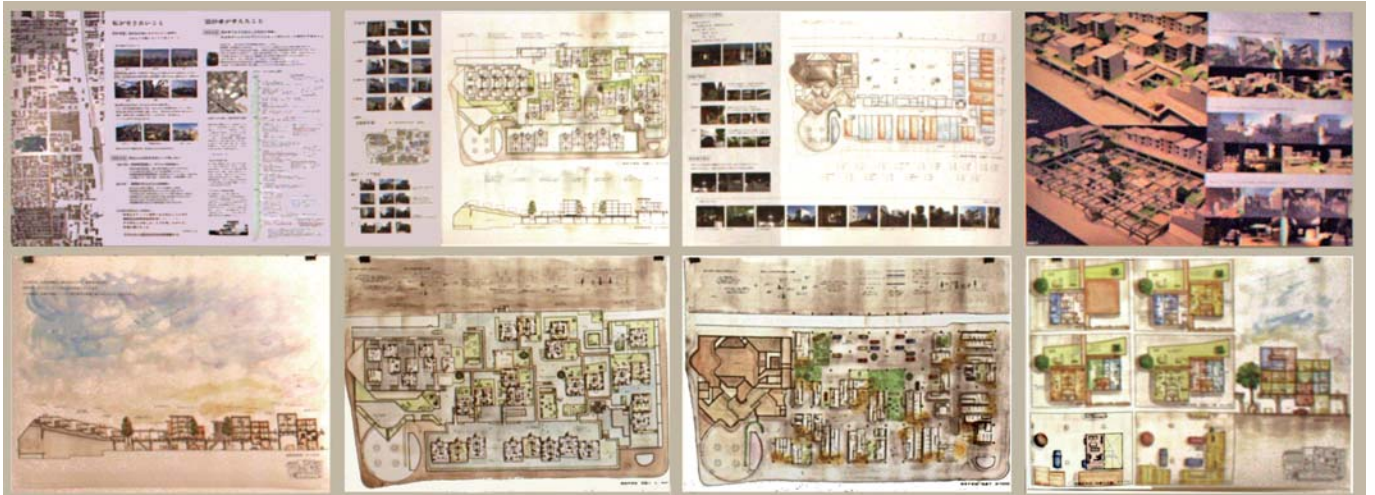
最優秀賞

工学院大学建築学部建築デザイン学科 高橋 杏奈
坂出人工土地 再生計画

香川県坂出市にある日本で最初の人工地盤を用いた建築、坂出人工土地。竣工から 50 年近くが経過した今、モダニズム建築として保存したい市と、住みやすいように改修工事を希望する住民とで意見が割れています。

私は、集合住宅、商店、公共施設、様々な要素の集まった小さなまちが、これからコンパクトシティになっていくであろう坂出市に、必要な形だと考えました。目に見える大きな地盤に、様々な世代と一緒に暮らすことで連帯感が生まれ、近所付き合いやコミュニティが形成されるきっかけになります。

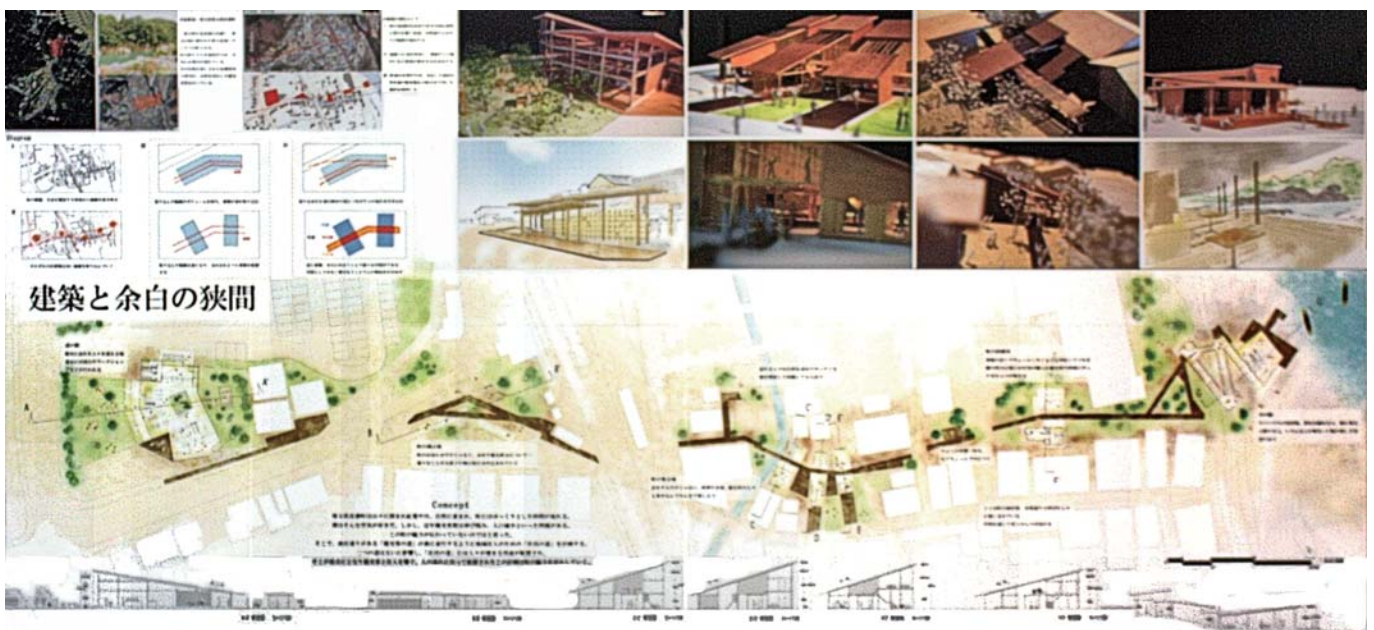
設計者である大高正人の想いを受け継ぎ、現代に合わせた形で蘇らせます。



埼玉 賞

日本大学生産工学部建築工学科 加藤 慎也
建築と余白の狭間

町の観光の中心となる商店が並ぶ「岩畳通り」がある。この「観光客の道」の裏に並行するように地域住民のための「住民の道」を計画する。二つの道は互いに影響し、「住民の道」には人々が溜まる用途が配置され、そこが接点となり観光客と住民を繋ぐ。人の流れに沿って配置されたこの計画は町の魅力を活かしていく。



優 秀 賞

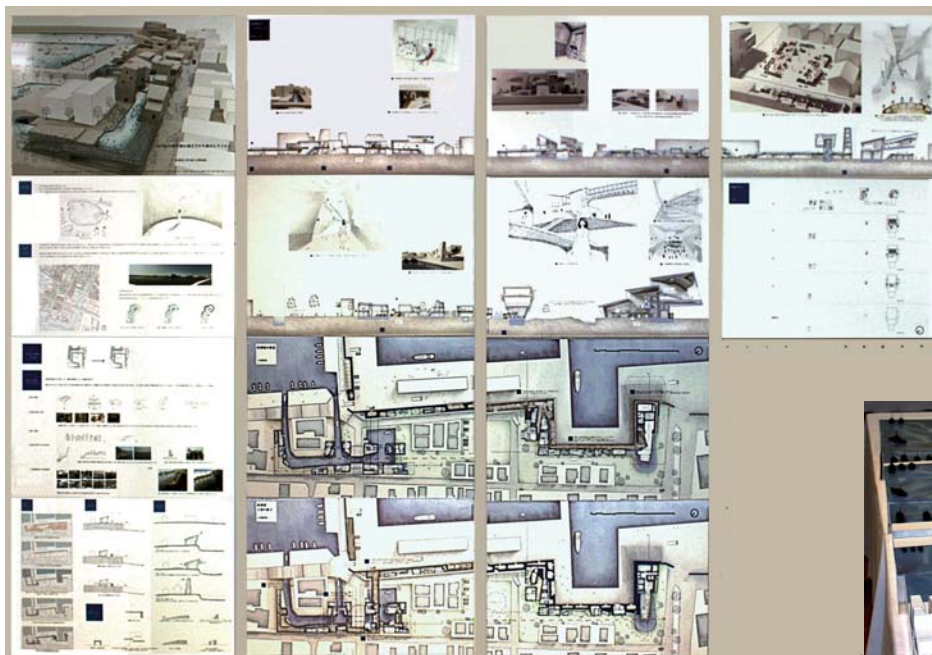
東京理科大学理工学部建築学科 小室 龍昭
余白な建築 ～その余白は風景を吸い込む～

私は台湾で生まれました。第二の故郷である台湾はとんでもなくごちゃごちゃした国だ。そこには余白があり、台湾人はそれを上手に使う。祖母の住む町は日本統治時代に作られた街区にあり、その家は台湾人の性格に合っていない。台湾人は多くの余白がある住宅がふさわしい。その余白は周りの色を吸い込み溶け込む。その建築は町の起点となり、町に点在することで、町の活性化に繋がる。そして台湾に新しい風を吹かす。



優 秀 賞
J I A 埼玉優秀賞

東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 木曾 貴大
1467mの境界線に閉ざされた海のレクイエム
—防潮堤に寄り添う交響建築—



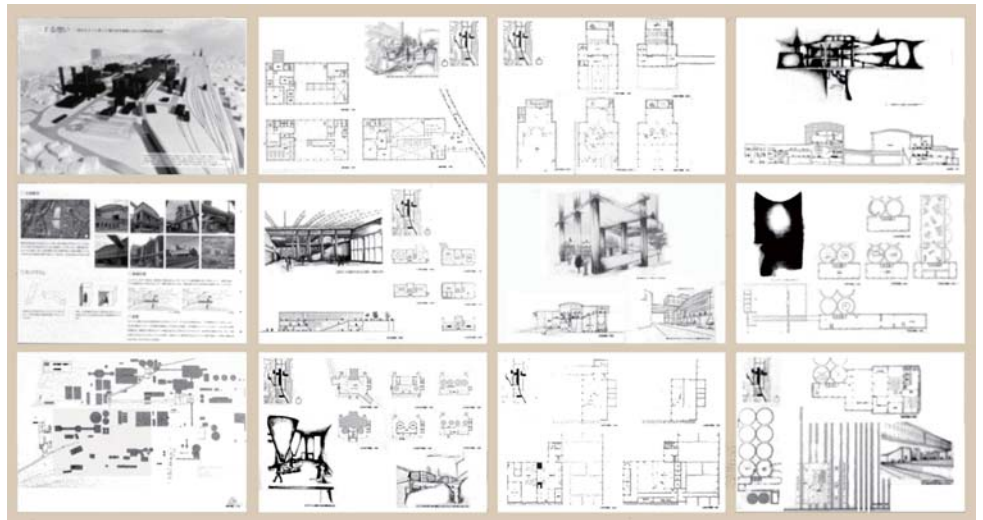
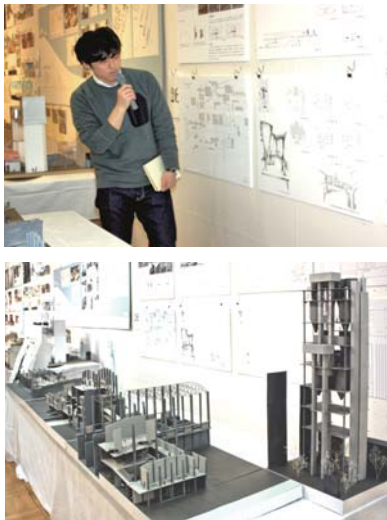
漁港を囲む防潮堤の一部を設計し、失われた海の風景が再生され、人と自然がより豊かに関わるような複合施設を提案する。人の交わりが閉ざされた漁港に賑わいを生み、それが防潮堤に響き合い、街と海を一体化する。



準埼玉賞

神奈川大学工学部建築学科 町田 純一
建築継承する想いー秩父セメント第2工場の空き建屋における博物館の提案ー

本計画で扱う秩父市においては、かつてセメント産業が産業の中心を担っていたが、そのことを知らない人も多い。そのため、工場という閉じられた場所を地域に開き、親しみを持ってもらうことでセメント工場の歴史や記憶を残していく。また、谷口吉郎氏設計でDOKOMO OMOに選出されていることから、屋根やファサードが特徴的な建物群としての佇まいを保存することを大前提に、空き建屋のコンバージョンを行い、人々を引き込み、この場所が賑わい、将来的に建物が保存されるきっかけになることを目指す。



特別審査員賞

東洋大学理工学部建築学科 村上 智可
3色パレット ー彩られた生活の塗りかえー

3色パレット ー彩られた生活の塗りかえー



認知症患者が自立した生活をおくれるようなインテリアを設計し、そのインテリアが住宅、街をどのように彩ることが出来るのかのプロトタイプ提示。



特別審査員賞

日本工業大学工学部建築学科

大野 敦志
蚕都婚礼街道

長野県上田市において、江戸時代から行われてきた蚕糸業の工房と、その製品を体験する結婚式場を組合せ、建築的に再構成する提案である。敷地は宿場町として栄えていた柳町に、コミュニティの場として賑わってきた街道沿いに計画する。かつて庶民の日常的な衣として纏われてきた上田紬は生活の変化などにより衰退していき、上田の街中に広がっていた蚕糸業の生業は日々の生活から離れていった。上田紬に関わる蚕の生息地、貯蔵空間、生産の工程を生態系として捉え直し、プロットした空間のあり方を探る。街に点在していた生態系をひとつながりの工程空間を持つ建築として構成していく。計画は3本の道として成り、紬工房、結婚式場、街の動線を立体的に呼応していく。街道から広がる紬工房は祝儀の場を取り巻きながら街の人々へ紡ぐ新たな風景を生み出していく。



特別審査員賞

東京理科大学工学部第二部建築学科

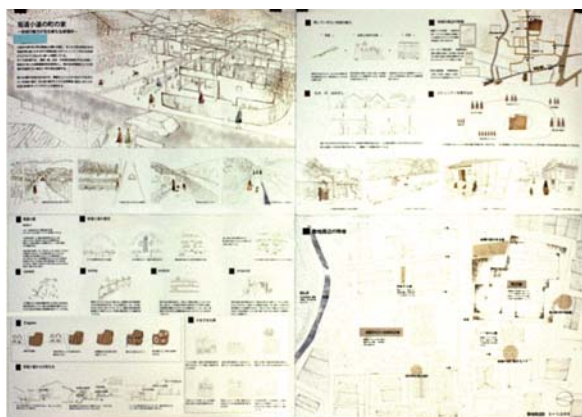
増田 有佐
新世界との邂逅

本計画は、新世界通り全体のリノベーションと、銭湯の新築である。リノベーションでは、独特の雰囲気を作り出す要素を外壁面にあると考え、表層をそのままに建築的性能を持ち上げるような計画をした。
新築の銭湯は、富士山への眺望を得るために地上15mに持ち上げた。



さいたま住宅検査センター賞

日本工業大学工学部生活環境デザイン学科 永澤 絢佳
坂道小道の町の家 ―地域の魅力が生む新たな居場所―

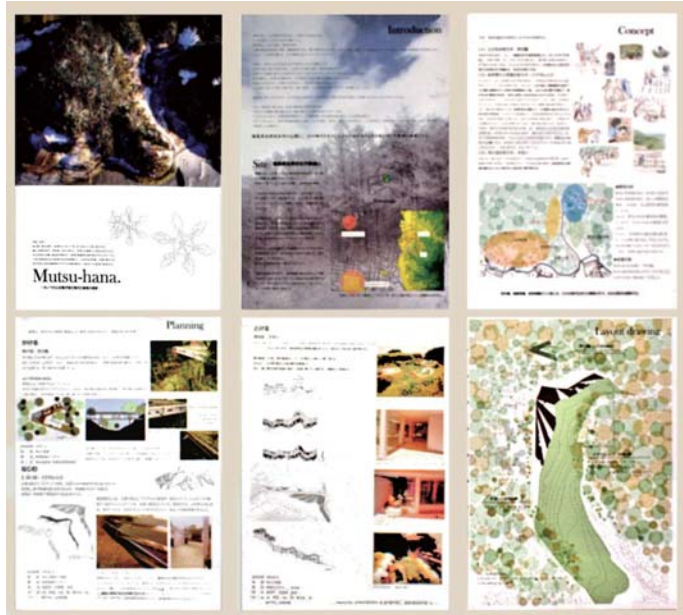


大阪府大東市寺川町には古くから残る1つの坂道が存在し、石垣・塀・傾斜が特徴的な風景をつくりだしています。かつては商業の中心として栄え、人々が集まっていた坂道も、現在は車の道と化し、人々の居場所は坂道からさらに入り込んだ小道へと展開しています。小道沿いには、地域住民の様々な居場所やコミュニティが存在します。変わらず受け継がれてきた風景と融合し、人々がつながる新たな生活の場面をつくりだしています。

総合資格学院賞
J | A 埼玉優秀賞

ものづくり大学技能工芸学部建設学科 中野 綾希
「六花(むつはな)」―あいつの心を繋ぎ育む現代の集落の提案―

雪国 会津。舞い落ちる雪を会津の人々は「六花(むつはな)」と花に例えてきた。厳しい自然の中で、雪を美しいものに例えた会津人の感性に心惹かれるものがあり、そんな会津人の強い意志を手掛かりに、会津の雪の形をデザインモチーフとし、六花に象徴される美しく厳しい自然との共生をテーマとした。こどもたちの笑顔、会津の伝統と文化が未来に花咲く、持続型のプログラムを持つ小さな集落の提案である。



総 評 「第16回卒業設計コンクール展」

審査委員長 芝浦工業大学名誉教授 衣袋 洋一



まず初めに、名誉作品の講評を以下に記します。

■最優秀賞作品

設計主旨に「設計者である大高正人の想いを受け継ぎ、現代に合わせた形で蘇らせます」と述べている。しかし、建築的構成・要素・要因だけではなく、大高が提案した時代の社会状況を読み取り、分析し、「骨幹」となるものが、現在ではどのように生かせるかの提案をすべきであったと感じる。本建物のみではなく、周辺環境を含んだ地域、都市に対して、何を残し、何を消去するかの評価基準を明確すること、つまり、建物そのものだけではなく、地域周辺を含んだ積極的な提案があっても良かった。その際、大高正人の提案は「見えない情報」となるが、大高正人の大文字の建築＝

「見えない情報」を現代にいかに生かし、今回提案する「見える情報」＝構築物か大高正人の想い＝意思を作品の中に現在として蘇らせてほしかった。

大高正人の想いは「メタボリズム＊1」ではないだろうか。その当時提唱した「メタボリズム」の生まれた状況等の「原因と結果」を分析、検証し現在及び将来に向けての新たな「メタボリズム」として提案＝設計に反映してほしかった。しかし、作者からは「メタボリズム」という言葉が一度も言及されず、公開審査の席上で、審査員から質問がなかったのは疑問であった。

本作品は、表現かほのぼのとしたものであり、賢明な解決策であったことは言うまでもない。結果、審査員に高評価を与え、最優秀作品として選出された。

「現在」において、根本的に解決しなければならない隠れた要因を探し、分析、検証し、自身を持って、一歩上の「建築」を目推してほしい。今後の活躍を期待します。

■埼玉賞作品

常に、まちの要素として「主・副」「密度の高・低」「中心と周辺」、及び「人の流れの上・下」等が存在する。順調に形成されていれば、まち、地域独特の「流れ」と「回遊性」が生まれ、うるおいと活気あるまちとして現在まで生き延びる。

最近多く見られる現象として、地域開発、バイパスの開通等により、新市街地のみが繁栄し、旧市街地は「空室」「空き家」が目立ち、シャッター通りになってしまうといった「バランス」を欠いた結果を招いていることがある。人間が求める「便利さ」と「快適さ」の欲求、及び「経済効果優先」はまちに負的要因を生じさせる。

『二つの道は互いに影響し、「住民の道」には人々が溜まる用途が配置され、そこが接点となり観光客と住人を繋ぐ。人の流れに沿って配置されたこの計画は町の魅力を活かしていく』というコンセプトのもと、本作品は新たな「場」と「流れ」を生み出すことを試みた。

これがなかなか大変なことである。あちらを立てればこちらが立たず、という結果に陥る。

本作品において、一方の計画、設計を述べているが、上記問題を解決するため、新旧町並みを「つなぐ」要素、互いに「染み込み・染み込み・馴染む」要素等への配慮があれば、まち、地域全体が潤い、活気ある「地域」となり、より一層の現実味、可能性を帯び計画・設計になったと思われる。

今後、建築のみではなく経済・商い及び人間の心理等を学び、まちの開発・設計及び建築に生かしてほしい。

最近の学生を評価する際、私は「フラット」という言葉を使用する。身近な問題を対象に「二項対立」「対立」「両極」的に問題設定・解決（方法論、技術論的に）を図るのではなく、最初から対立を不明確にし身近な、現在的な「生活」「慣習」「秩序」等々が基準となり、穏やかな、波風がたたない設計、作図、表現を提案する。それを認める指導教員及び周辺教員が増えたのも事実である。学生作品をまず認め、「改良」をはかり、その延長線上に寄り添い、完成させていく「優しい指導」と言える。反面、学生自身が問題点として「気づき」「気づかされる」といった、文科省が大学教育に求める「アクティブ・ラーニング」が身につくかどうかは少々疑問を感じる。

第16回卒業設計コンクール

彼らの考え方、方法等は、ある意味で冷静、クール、自分の意見を強く主張しない、落ち着いた人間としてコラボレーションに向いた人たちでもある。しかし、強い、圧倒するかもしれない提案型ではなく、「フラット」な改修・改良型になってしまう傾向にある。と同時に、関係性が「フラット」になり、プロジェクトを進めて行くためのリーダー不在ともなる。

最後に、ここ数年、最優秀賞、埼玉賞候補作品選出公開審査において、3作品くらいの接戦を繰り広げることが多くなってきた。それ以前は、ある学生の作品が単独で票を集めるか、2作品で争うといったケースが多く、審査をする方々のほとんどが、内容、表現、プレゼンテーション等々に対して納得することが多かった。

では何が変わってきたのだろうか？

- ・先述した学生のフラットな意識
- ・年代の違う審査する側とされる側との間には、現在の社会状況の中であって、問題設定範囲、価値基準の同一性
- ・単体建築を中心とした思考であり、その対象建築が建っている地域、都市としての価値、スケールの欠如
- ・思考範囲の狭さ、住環境、社会的関心等に世代間で大きな差がないこと、社会の目に見えない深刻な問題の同一性。ある意味での3.11精神的デフラク現象、社会的フラット化の蔓延等があげられるのではないだろうか。

学生諸君へ。

今回の審査は限られた人による評価です。君たちへの評価は多種多様です。場が変われば評価も変わる。大事なことは、あらゆる「場」に対して「素直に見、素直に感じ、素直に学び、素直に行動・表現」することです。「学び」で獲得した君自身を評価し、自信を持って先に進んでください。

今後の活躍を期待します。

=====

*1 彼らの構想した将来の都市は、高度経済成長という当時の日本の人口増加圧力と都市の急速な更新、膨張に應えるものであった。彼らは、従来の固定した形態や機能を支える「機械の原理」はもはや有効的でないと考え、空間や機能が変化する「生命の原理」が将来の社会や文化を支えると信じた。黒川紀章や菊竹清訓らの都市・建築計画では、無数の生活用ユニットが高い塔や海上シリンダーなどの巨大構造物に差し込まれており、古い細胞が新しい細胞に入れ替わるように、古くなったり機能が合わなくなったりした部屋などのユニットをまるごと新しいユニットと取り替えることで、社会の成長や変化に対応しこれを促進することが構想された。

都市規模の巨大構造物（メガストラクチャー）を志向しがちなメタボリズム・グループの作品は、しばしば技術官僚的と評された。メタボリズム・グループの起源は、1950年代の終わり頃にある。モダニズム建築を主導してきたCIAM（Congre slnternational d" Architecture Modeme ・シラム・近代建築国際会議）が1956年を最後に開かれなくなり1959年に終焉した頃、CIAMの若手メンバーらによる新しいグループ・Team x（チーム・テン）が台頭し、世界の若い建築家らに影響を与えた。日本の若手建築家達も彼らと交流し、その影響を受けた。

1960年に、日本で世界デザイン会議（World Design Conference）が開かれる予定になっていたが、この会議のプランニングに関わった建築家達（浅田孝・菊竹清訓・黒川紀章・大高正人・栄久庵憲司・栗津潔・槇文彦）と建築評論家の川添登は、建築の将来について話し合うグループを結成した。世界デザイン会議において、彼らは最初の宣言である『METABOLISM/1960—都市への提案』を発表し、「海上都市」「塔状都市」「新宿ターミナル再開発計画」など、成長し、新陳代謝する巨大都市のアイデアを披露した。彼らのアイデアは、将来の社会を具体的に提案しようとしたもので、建築のみならず哲学など広く近代文明にも言及するものだった。しようとしたもので、建築のみならず哲学など広く近代文明にも言及するものだった。